

## COVID-19 の検査に関するテクニカルウェビナー

2020年9月28日に開催されたCOVID-19の検査に関するテクニカルウェビナーは、COVID-19のアウトブレイクの原因となる重症急性呼吸器症候群コロナウイルス2 (SARS-CoV-2) の分析作業において検査室の科学者を支援することを目的としています。

インドネシアのCOVID-19の国家サーベイランスでは、2020年3月に12の検査機関で検査を開始し、現在は官民合わせて約270の検査機関に拡大しています。また、PCR検査数が不足している州の検査能力を補うために、Badan POMの15の検査機関も国家サーベイランスに参加しています。

感染者数が数ヶ月単位で増加する中、研究所の科学者たちは、WHOが推奨する全国の検査数の基準を達成するために努力してきました。彼らの仕事には、その品質と責任を考慮しつつ、適切な分析方法で検査結果の精度を確保することが不可欠です。また、検査員を保護し、周辺環境への感染を防ぐためにも、検査試料の安全な取り扱いが必要です。

そこで今回のウェビナーでは、JICAが日本とインドネシアの3つの研究機関から講師を招きました。1つは、日本のCOVID-19サーベイランスの中心的な責任機関である国立感染症研究所。もうひとつは、スラバヤのイルランガ大学 (UNAIR) と、ボゴール農科大学 (IPB) です。これらの大学は当初から国内のサーベイランスに参加しており、2つの大学はCOVID-19対応加速タスクフォースのメンバーでもありません。

開講にあたり、JICAインドネシア事務所次長の高樋俊介氏は、公衆衛生分野における日本とインドネシアの長年の協力関係を振り返り、COVID-19の発生に対処するための両国の協力関係の一環として、今回のテクニカルウェビナーの重要性を強調しました。



棚林 清氏

SARS-CoV-2を含む感染性物質を扱う際に必要なバイオセーフティーの原則と管理方法について、元NIIDバイオセーフティー管理研究部長の棚林清氏が解説しました。

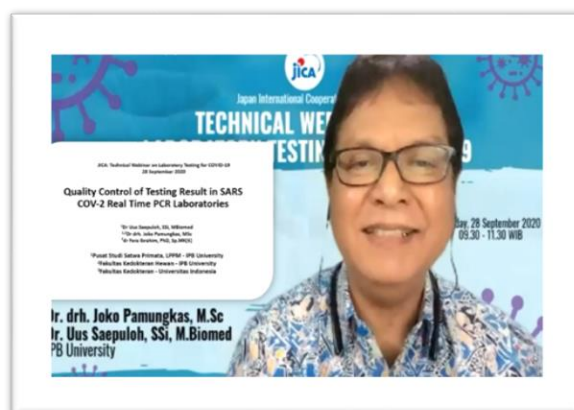
実験室での失敗の多くはヒューマンエラーによるものであるため、設備や実験室の構造に加えて、適切な取り扱いと管理が非常に重要であると説明しました。

アイランガ大学熱帯病研究所 (UNAIR) のマリア・インゲ・ルシダ教授 (Dr.、M. Kes.、Ph. D.、Sp. MK (K)) は、実験室での分析業務における重要なポイントを説明し、検査成績に影響を与える可能性のある主な要因は、サンプルの収集、サンプルの処理、感染者の状態などから生じる可能性があるとして述べました。SAR-CoV-2 検査における偽陽性・偽陰性の結果が生じる要因は、PCR 検査キット、機器、人間のスキルに起因すると考えられます。



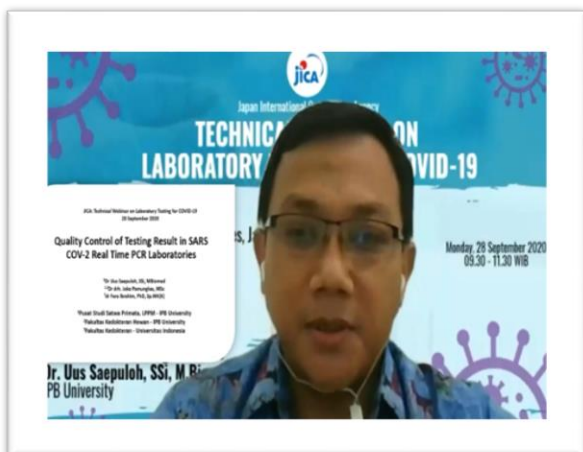
アイランガ大学のマリア・インゲ・ルシダ教授

ボゴール農科大学獣医学部のジョコ・パムンカス博士と霊長類研究センターのウウス・サエプロ博士は、検査結果の品質に影響を与えている可能性のある様々な要因に焦点を当て、現在市販されている様々な PCR 検査キットが標的とする遺伝子配列の異なる特性について言及しました。



ボゴール農科大学のジョコ・パムンカス博士

また、異なる地域や国での COVID-19 の流行に伴う SARS-CoV-2 の遺伝子変異による分析上の不具合の可能性も示唆しました。RT-qPCR 法は高度な技術的リテラシーとスキルを必要とするため、よく訓練された科学者が分析作業に携わるべきだと提案しました。



ウウス・サエプロ博士

このウェビナーには、約 250 名の科学者が参加しました。



For inquiry, please contact us  
jicabpom[at]gmail[dot]com